

デザインのモノがたり

3

BARAMON
 五島手延うどん／1袋200g(2人前、あごだし粉末スープ付)525円
 矢堅目の塩／1瓶50g 630円 かんころ餅／1個200g 420円
 株式会社フジオカ TEL.095-813-8135 長崎市田中町582-4

BARAMON 検索

羽山さんは上五島へ渡り、まちを歩き、海を見て、製麵所へも足を運んだ。まちには至るところに椿の花が自生し、波は思ったよりも力強い。そして作っている人たちは皆一生懸命だった。

羽山さんには一番気に入っているデザインを尋ねたら「矢堅目の塩」という答えが返ってきた。矢堅目とは、五島列島西方にある海上航

路の目標ともなっている円錐形の奇岩のことで、複雑な海岸線と相まって、その景観は上五島を代表する美しい風景のひとつとなっている。デザインはこの矢堅目と波をモチーフにしている。これも上五島へと渡ったからこそ生まれたデザインだ。パッケージデザインの力

以前、五島を旅したとき、お土産選びに苦労したことがある。どれも五島ならではの美味しいものだが、友人に渡すにはパッケージが地味過ぎる…。このときの想いを払拭してくれたのが「BARAMON」だ。株式会社フジオカの藤岡秀則代表は企画の意図を「五島にある本当にいいものを県外の人にもっともっと知ってもらいたかった」と話す。藤岡さんが目指したのは女性に手にとりやすいデザイン。そこで白羽の矢が立ったのが、デザイナーの羽山潤一さんである。

羽山さんは言う。「行ってみたいなと分からないことがあります」。藤岡さんへと提出されたデザインやネーミング案は十種類以上。三つの商品を別々にデザインするつもりだった藤岡さんにとって目からうろこだったのは、それぞれの商品を一つのブランドイメージとしてデザインする提案だった。そして五島らしいモチーフを盛り込み、素材で可愛らしい今回のパッケージが選ばれた。羽山さんが商品パッケージを手掛ける際にいつも目指しているのは「つい手にとりたくなるもの」。BARAMONのデザインは、まさにそれだ。

消費として購入していた商品が、見事にお土産としての地位を確立し始めた。女性たちが思わず友だちに自慢したくなる——柔らかな優しいデザインはそうした力を秘めていた。



一九七七年長崎県諫早市生まれ。長崎日本大学高等学校デザイン美術科を卒業後、長崎市の印刷会社やデザイン事務所勤務。デザイナーとしてポスターやパンフレット、広告などの制作を担当。二〇一二年、デザイン事務所「デジマグラフィ」を設立。出島のある長崎を拠点に日本全国、世界のものを吸収、発信したいと名付けた。広告を中心にグラフィックデザイン、パッケージデザイン、アートディレクションを行っている。夢は、かつての出島のようには海外の国々と仕事をすること。

羽山潤一
 デジマグラフィ
 アートディレクター
 グラフィックデザイナー

※「長崎デザインアワード」とは、県内で企画、開発された商品の中から優れたデザインを選定・表彰し、県内企業のデザイン開発意欲やデザイン力の向上に寄与することを目的として開催している。

長崎デザインアワード2013

大賞

五島らしさを
 めいっぱい詰め込んだ
 お土産に。ピツタリの
 可愛いパッケージ

